

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

1&2

JANUARY / FEBRUARY
2010

CONTENTS

ニュー・イヤー・コンサート 2010	1
モーツァルト: ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第5回・第6回	2~3
スイス・チェンバー・ソロイスト	3~4
SELF PORTRAIT Coro La DIVA	4
ちょっとお昼にクラシック⑨	5
最近の公演から & プチ情報	6~7
インフォメーション	8



写真上;ニュー・イヤー・コンサート2009から
写真左:児玉 桃 (photo:Vincent Garnire)
写真右:天羽明恵 (photo:Akira Muto)

ショパンとシューマンの音楽に酔いしれる 新春の夜

●1/5(火) ニュー・イヤー・コンサート2010

「浪漫紀行 —— 音の詩人 ショパンとシューマンを訪ねて——」

水戸芸術館が誇る、水戸室内管弦楽団をはじめとする専属楽団のメンバーと素敵なゲストでお贈りする「ニュー・イヤー・コンサート」。2010年の幕開けを飾る今度の演奏会は「浪漫紀行 —— 音の詩人 ショパンとシューマンを訪ねて——」と題し、生誕200年を迎える二人の作曲家の名曲や知られざる傑作を心ゆくまでお楽しみいただきたいと思います。

ロマン派の音楽が開花したのは主に19世紀。それまでの古典派の時代に比べて、作曲家たちは感情や想像力、個性を重視し、成就しがたいものへの憧れを作品の中で表現しようとしてきました。多彩なハーモニーや表情に富んだ旋律をもつ作品が百花繚乱…それがロマン派音楽の時代なのです。

今回取り上げるショパンとシューマンは、共に1810年生まれ。ポーランド生まれのショパンは当時、作曲家・ピアニストとして活躍していました。皆様もご存知の通り、彼は「ピアノの詩人」と呼ばれるほど数多くのピアノのための作品を作曲しました。ニュー・イヤーでは、ピアノが主役となる作品に加え、美しい室内楽曲もぜひご紹介したいと思います。一方ドイツに生まれ、文学からも深い影響を受けたシューマンは、ピアノや歌、

室内楽や管弦楽などの各ジャンルで優れた作品を生み出しました。この演奏会では、様々なジャンルの珠玉の作品をまとめてお楽しみいただきます。

さてプログラムは当日まで内緒ですが、豪華出演者たちが集います! 登場する専属楽団メンバーは、ヴァイオリンが加藤知子、久保陽子、久保田 巧、小林美恵、田中直子、中村静香、沼田園子、堀 伝、そして松原勝也。ヴィオラは店村眞積と川本嘉子。チェロが堀了介と松波恵子。コントラバスが黒木岩寿。フルートが工藤重典。このそうそうたる顔ぶれが、ソロ、室内楽、そしてスペシャル合奏団と、あらゆる編成で熱演を繰り広げます。特別コーナーでは、この2人の芸術家に影響を与えたあの奇才の作品もご紹介します!

アンサンブル、そしてソロの伴奏を務めるのは、ピアニスト・作曲家の野平一郎さん。ニュー・イヤー・コンサートには何度もご出演いただき、共演者からの信頼も篤い野平さんは、これまで水戸芸術館で「モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会」というビッグ・プロジェクトを進めてきました。この1、3月に行われる第5、6回が、いよいよその集大成となります。

ピアノのゲスト2人目は、バッハからメシアンなどの現代作品まで、幅広いレパートリーと豊かな表現力で世界的に高い評価をうけている児玉桃さん。2006年の、小澤征爾指揮の水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会や2008年の第3回ヨーロッパ・ツアーでは、細川俊夫の〈月夜の蓮〉の演奏で、水戸とヨーロッパの聴衆に深い感銘を与えました。児玉さんはショパンのピアノ曲、シューマンの室内楽曲を演奏していただく他、ショパンのあの協奏曲を「スペシャル合奏団」と共演します。

続いてお迎えするのは、ソプラノの天羽明恵さん。天羽さんは水戸芸術館で、1996年のMCO第26回定期演奏会(指揮:若杉 弘)の時、リヒャルト・シュトラウスの〈ナクソス島のアリアドネ〉のツェルビネッタ役を鮮やかに歌いあげました。また2007年の「花」をテーマにしたニュー・イヤー・コンサートでは、「超絶的なコロラトゥーラ」と称される華麗な歌声を披露し、会場から大喝采が沸き起こりました。今回は、それらとはまた性格の異なる、シューマンの歌曲をどのように聞かせるのでしょうか? ご期待ください!

2010年の新春の演奏会から、音楽との幸福な出会いがたくさん生まれますように。それでは皆様、よいお年を!
《高巢》



写真左:第3回(2009年1月23日)から
写真右:第4回(2009年3月6日)から

野平一郎氏からの寄稿掲載！ いよいよ最終年度です！

● 1/23(土)、3/6(土) モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第5回、第6回

モーツァルト：
ピアノ・ソナタ全曲演奏会に寄せて
野平一郎

3年がかりのモーツァルトのピアノ・ソナタ連続演奏会も、いよいよ最終年。このシリーズでは、モーツァルトの歩みとともに、ソナタ全曲を年代順に取り上げてきました。また時代時代で特徴的な変奏曲や小品、また四手連弾の作品も演奏し、モーツァルトの鍵盤作品を多角的にとらえるように試みてきました。2010年1月と3月に予定されている2回の演奏会では、いよいよモーツァルトの創作の最終段階へと向かって行きます。

モーツァルトの短かった35歳の生涯。その中で、郷里の大司教と喧嘩別れて、ウィーンに定住して自立した音楽家として生きようと決心した時、彼はもう25歳だった。それ以来、このような作曲の大天才にして、何回もの飛躍の瞬間が訪れる。バッハやヘンデルの音楽との邂逅、そしてハイドンという人物や彼の音楽との出会い。自身の音楽語法を何度も見直し、検討に付し、その結果として音楽の表現はさらに大きく、深さを増し、論理の網が縦横に這わされて行く。オペラではどのような登場人物のどのような状況でも音楽が描写でき、器楽曲では全音階と半音階の深い融合、さらなる横と縦の響きの一体化の結果、その表現の射程は遠くロマン派へと達することとなる。こうしてモーツァルトは、30歳になった1786年に〈フィガロの結婚〉、1787年に〈ドン・ジョヴァンニ〉、1788年には三大交響曲といった真の傑作が書かれることとなる。今回取り上げるソナタは(第15番 K.533/494)から(第18番 K.576)までの4曲。いずれも1786年から89年の間に書かれた最晩年(という言葉で30歳代の作曲家に使うのは大変違和感があるが)の作品である。

いずれも鍵盤楽器のために素晴らしく書かれ

ているのだが、最早「楽器」という一つの制約の上に作曲されたといった感じはない。彼の作る音楽的な「力」は、楽器という概念を包み込みながら、それをはるかに超越してしまったかのようだ。初期のソナタのように、チェンバロ、あるいは初期のピアノフォルテの鍵盤の上に指を這わせて遊んでいるような、こうした楽器で即興しているような、そんな印象は勿論もうない。さらにウィーンに定住した頃のソナタのように、楽器の発達を如実に感じさせるような印象もなければ、ピアニストとして名前を売らなければならなかったモーツァルトが自身の技を見せるために書いた華麗なパッセージも最早ない。

この4曲はいずれも別々の機会にかかれ、それぞれが異なった特徴を持っているにもかかわらず、ここには熱狂の中にも独特の落ち着き、静寂がある。

〈第15番〉は他のソナタに見られない不思議な雰囲気を持っている。もともと別の機会に書かれた第1・2楽章と、独立した「ロンド」として書かれた第3楽章から成るが、そこには意外とも思える調和がある。第1楽章は1788年に書かれただけあって確かにモーツァルト後期の玄妙な響きをするのだが、同時にとても擬古的であり、新旧の表現が独特の融合と調和を見せる。堂々たる構成のロンドは、〈フィガロ〉の時代の所産だが、各主題がピュアで実に美しい。

〈第16番〉のハ長調のソナタを知らない人はいないだろう。ピアノ学習者が必ず学ぶ作品だろうが、こんなに素直で純粋な、開かれた主題を、一体モーツァルト以外に誰が書けるといえるだろう。彼の耳によって選別され、これ以上削れない必要最小限の音が、しかし次から次へと楽譜から溢れ出してくる。子どもが良く弾くとはいえ、経験を積みば積むほど、またこの作品の見方も異なってくるような味わいの深いものである。

〈第17番〉は、もともとヴァイオリン・ソナタとして知られていた作品で、そうしたかたちでの譜面も存在している。そのためか、実際弦楽器の持

つレガートを強く印象付ける作品である。本当にピュアであり、印象としてはもう死の年(1791年)の作品かと思いを違えるようなところがある。変口長調というれっきとした長調の作品ながら、ここには一種の諦観の美がある。

〈第18番〉は、いよいよ最後の作品。何かここには今までの鍵盤作品の総括をするかのような、「総合的な」感じが漂っている。対位法や和声の素晴らしさに加えて、優美なところ、諧謔的なところ、奔放なところ、気高いところ等々、モーツァルトの表現のすべてがここにある。

さらに第5回(1月23日)には、今年四手連弾のための作品で大好評だった東 誠三氏をむかえて2台ピアノの作品を3曲演奏する。いずれもモーツァルトがウィーンに出て来て間もない頃の作品で、華麗な響きが楽しめる。また第5回、第6回を通じて、上記のソナタが書かれたモーツァルト最晩年(31～33歳)に書かれた、素晴らしい小品や変奏曲の数々も披露したいと思う。口短調のアダージョ、イ短調のロンド、二長調のメヌエット、小さなジグ、デュポールの主題による変奏曲といった作品群で、1787年から89年にかけて書かれている。いずれも半音階を多用した独特の音世界、表現の彫りの深さなど、前人未到の領域を開拓している。しかし極め付きの世界は、第6回の最後に演奏する予定の〈自動オルガンのためのアンダンテ へ長調 K.616〉。わたしは3年前にこの企画の話しが起こった時から、死の年に書かれたこの曲の響きで全体を締めくくりたいと思っていた。それほど、この曲の純粋さは私を魅了する。1791年、モーツァルト死の年に書かれた作品の中でも、最後の変口長調のピアノ協奏曲、〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉や〈魔笛〉といったひと際美しく、ピュアな作品群に属している。

ベートーヴェンが新しい時代を開拓し始めるのは、もうあと数年のところには迫っている。表現のダイナミズムは明らかに別の次元となるだろうが、和音の響きの多様性と、それがもたらす表現の口

写真左:ハインツ・ホリガー
写真右:スイス・チェンバー・ソロイスト



マン性は、実はモーツァルトの方が数段勝っている。こんなところで舌足らずに音楽の二大天才を比較してもどうしようもないが、ベートーヴェンの和声は相当に常套的である。フンメル、クレメンティ、シュポア、チェルニーといった同時代の作曲家たちとその意味では何ら変わることはない。しかし、そうした同じような和声を用いても、ベートーヴェン独特のサインが入った音楽になってしまう、彼独自の「フィルター」が存在する。ダイナ

ミックス、音域、アーティキュレーション、リズム…。さらにベートーヴェンの音楽の響きは、時代が進むと次第に「時代を感じさせないもの」となる。

さっきから今回演奏する作品について、「ピュアだ」「純粋だ」と、同じ表現を再三繰り返している。こんなに演奏が楽しみで、しかも同時に怖い作品群もない。作品の「純粋さ」は、演奏の「純粋さ」、タッチの「純粋さ」を必要としている。明ら

かに音楽の最高の瞬間の一つであるこうした作品群を聴いていただくことができるのは、演奏する者に取っては最高の喜びである。いま、毎年のようにモーツァルト漬けになる年末を迎えようとしている。自分の年齢と経験に適応した表現に到達できれば良いのだが…、と思いながらさらっている。乞うご期待。ぜひ演奏会でお会いしましょう。

現代最高のオーボエ奏者ハインツ・ホリガーが、水戸の舞台に登場します。

● 2/7(日) ハインツ・ホリガーと仲間たち —— スイス・チェンバー・ソロイスト

現代を代表するオーボエ奏者ホリガーが、同郷スイスの仲間たちとともに、室内楽の演奏会を行います。ぜひ水戸芸術館にご来場いただき、ホリガーの新しい伝説の立会人となってください！

聴衆も作曲家も魅了する希代のオーボエ奏者

ハインツ・ホリガーは、1939年スイス北部のベルン州ランゲンタールに生まれた、現代最高のオーボエ奏者、作曲家です。1955年から59年までベルン音楽学校で学び、オーボエをカッサニョーに、作曲をハンガリー人のヴェレシュに師事します。62年にはバーゼル・アカデミーでブーレーズに作曲のレッスンを受け、さらに63年にはパリ音楽院でオーボエを名手ピエルロに学んでいます。59年、20歳のときにジュネーブの国際コンクールに優勝。翌60年にはスイス音楽芸術家協会のソリスト賞を受賞。61年にはミュンヘン国際コンクールでも優勝しています。バーゼル交響楽団の首席オーボエ奏者を3年間務めた後、国際的にソロ活動を開始、瞬間に世界最高のオーボエ奏者として注目されるようになりました。ホリガーは、オーボエという楽器の可能性を極限にまで広げた天才で、どんな難曲であろうとも完璧に演奏してしまう技巧の持ち主です。いつの時代でも、天才的な演奏家のもとには、多くの作曲家から作品が贈られるものですが、ホリガーもその例外ではありません。ペリオ、ヘンツェ、クルシエネク、マルタン、ペンデレツキ、プスール、シュトック

ハウゼン、カーター、武満徹など、錚々たる作曲家たちが、ホリガーのために作品を書いています。

ちなみにホリガーは、作曲家としても優れた作品を残しています。15年以上もの歳月を費やして完成させたヘルダーリンの詩による、ソロ・フルートと小管弦楽、混声合唱とテープのための〈スカルダネリ・ツィクルス〉(1975-91年作曲)は、彼の最高傑作と賞されています。また、チューリッヒ歌劇場で自ら指揮したオペラ〈白雪姫〉(1998年作曲)も大きな話題となりました。

現代最高のオーボエ奏者ホリガーの演奏に、ご期待ください!!

ホリガーの同郷の仲間たち、 スイス・チェンバー・ソロイスト

今回、ホリガーがアンサンブルの仲間として選んだのが、同郷スイスの演奏家たちによって結成されたスイス・チェンバー・ソロイストの面々です。スイス・チェンバー・ソロイストは、世界でもトップ・クラスの室内アンサンブルを作りたいという考えのもと、1999年に結成されました。結成当初から、バーゼル、ジュネーブ、チューリッヒなどスイス国内での公演にとどまらず、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの各地でもコンサート・ツアーを行っています。レパートリーは幅広く、バロック、古典派、ロマン派の作品に加え、スイス・チェンバー・ソロイストのために作曲・献呈された曲を多数含む現代曲までをカバー

しています。また、メンバーは、スイスの4つの主要都市で定期演奏会を行うべく設立された「スイス・チェンバー・コンサーツ」の芸術監督も務めています。

ホリガーを除くメンバーは、フェリックス・レングリ(フルート)、ダリア・ザッパ(ヴァイオリン)、イェルグ・デーラー(ヴィオラ)、ダニエル・ヘフリガー(チェロ)の4人です。このメンバーの中のレングリは、水戸芸術館で開催したヴィンシャーマン指揮の水戸室内管弦楽団第70回定期演奏会(2007年)に出演し、J.S. バッハの〈ブランデンブルク協奏曲 第5番〉で、潮田益子、クリスティーン・ショルンスハイムと共に独奏者を務め、端正で優美な演奏を聴かせてくれていますので、ご記憶の方もいらっしゃるかと思います。

古典作品と現代作品が交錯するプログラム

プログラムは、ベートーヴェンとモーツァルトのいつまでも輝きを失わない2つの古典作品と、私たちと同じ時代に生まれてきた現代作品から構成されています。

演奏会の幕開けに演奏されるのは、ベートーヴェンのフルートとヴァイオリンとヴィオラのための〈セレナード 作品25〉です。「セレナード」は元来、恋焦がれる女性の家の窓下で、その心のうちを打ち明けるために奏されるタベの音楽という意味を持っていますが、本作品は、そうした曲種の由来にふさわしい、この上なく情趣



小林美恵



亀井良信



熊澤雅樹



小坂圭太

ヴァイオリニストの小林美恵さんが「お昼」公演に登場します!

● 2/19(金) ちょっとお昼にクラシック9 —— 疾駆のアンサンブル ——

平日の午後に開催する1時間のコンサート。それが「ちょっとお昼にクラシック」シリーズです。クラシック音楽にはあまり馴染みの無い方々でも気軽に楽しみたいだけ親しみやすいプログラムと破格の料金! 一方で、クラシック音楽を深く愛する方々にもご満足いただける第一級の演奏家たちの出演! —— この両方を兼ね備えることで、好評をいただいております。

10月には同シリーズの一環として、オルガニスト・グループTRMの演奏会をエントランスホールで開催。おかげさまでチケットも完売となる大盛況となりました。

小林美恵と若き才能たち

今回は「疾駆のアンサンブル」というタイトルで、ヴァイオリン、クラリネット、チェロ、ピアノによる演奏をお楽しみいただけます。出演者をご紹介しますいきましょう。

ヴァイオリンの演奏は、小林美恵さん。水戸芸術館専属・ATMアンサンブルのメンバーとして、1990年の水戸芸術館開館以来、数々の名演を聴かせてきています。小林さんは1990年には、ロン＝ティボー国際コンクールのヴァイオリン部門で日本人として初優勝という快挙を成し遂げています。余談となりますが、この権威あるコンクールのヴァイオリン部門で優勝した日本人は、小林さん以降では、2人います。そのうちの1人が、今夏ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに内定したというニュースで注目を集めている榎本大進さん(1996年)です。さて、今回の公演では、小林美恵さんの華麗な演奏が縦横無尽に繰り広げられます。どうぞご期待下さい!

クラリネットの演奏は、亀井良信さん。昨年に行った水戸室内管弦楽団(MCO)第3回ヨーロッパ公演にエキストラとして参加。同じくエキストラ出演したベルリン・フィルの首席クラリネット奏者ヴェンツェル・フックスと強力タッグが生まれ、ヨーロッパの聴衆を魅了しました。亀井さんは、MCO音楽顧問・小澤征爾氏ばかりでなく、フランスの巨匠ピエール・ブレーズ氏からも、その実力を認められ、フランスの騎馬オペラ団「ジンガロ劇団」のソリストとして世界ツアーに参加して

います。

チェロの演奏は、熊澤雅樹さん。熊澤さんも水戸室内管弦楽団の演奏会にしばしばエキストラとして出演を重ねています。ATMアンサンブルのメンバーの毛利伯郎さんやMCOのメンバーである原田禎夫さんに師事。ドイツのトロッシンゲン州立音楽大学に学び、その後フライブルク歌劇場管弦楽団にて研修をしています。そして昨年ドイツから帰国し、これから国内で本格的に演奏活動を展開しようとしている俊英です。

ピアノの小坂圭太さんは、ソロ演奏ばかりでなく、伴奏、室内楽、オーケストラの中で用いられる様々な鍵盤楽器、コレペティートウア(歌劇場などでオペラ歌手が新しいレパートリーを会得するのを手伝うピアニスト)など活動は多岐に渡っています。さらに、レパートリーも古典から現代作品まで幅広く、そのマルチぶりは他のピアニストの追随を許さない才人です。

駆け抜ける音楽、心和む音楽

プログラムは、各楽器の独奏曲から様々な形態の合奏作品まで、多彩な編成でお届けします。

「疾駆のアンサンブル」という演奏会タイトルが相応しい、エネルギーで、聴いていて身体が熱くなっていくような作品が、演奏会の最初と最後に演奏されます。まず、最初は、ヴァイオリン、クラリネット、ピアノの三重奏でストラヴィンスキーの組曲〈兵士の物語〉から〈悪魔の踊り〉。原曲の管弦楽による〈兵士の物語〉は、音楽とバレエと劇と朗読の要素からなる舞台作品で、テキストはロシア民話集から採られ、純朴な兵士が悪魔にだまされるまでの物語が描かれています。このバレエ音楽からストラヴィンスキー自身が5曲を選んで、演奏会用組曲として編曲しました。今回演奏されるのは、その中の〈悪魔の踊り〉。悪魔がヴァイオリンの名手に姿を変えるのですが、兵士のヴァイオリンの技量には負けてしまいます。そして兵士の演奏するヴァイオリンの音に合わせて、悪魔が奇妙な踊りを始めます。さてさて、どんな音楽と踊りなのでしょう? お楽しみに!

そして、「疾駆のアンサンブル」のクライマックスとなるのが、ヴァイオリンとクラリネットとピ

アノのために書かれた、バルトークの〈コントラスツ〉です。バルトークは当時吹き荒れたファシズムの嵐のために亡命を決意し、生涯最後の5年間をアメリカで過ごしています。このアメリカ時代のバルトークは、とても貧窮した生活を送りました。そんな彼の苦しい経済状態に救いの手をさしのべようと、ヴァイオリン奏者のヨーゼフ・シゲティと当時スウィング王としてジャズ界の第一人者であったクラリネット奏者のベニー・グッドマンが、バルトークに作曲の依頼をしました。そして生まれたのが〈コントラスツ〉です。今回演奏されるのは全3曲の中の終曲である〈シェベシュ(速い踊り)〉。シゲティとグッドマンから受けた友情に報いるべく、バルトークが創り上げたヴァイオリンとクラリネットの躍動感溢れる、輝かしい響きをどうぞご堪能ください。

さて、いくら「疾駆のアンサンブル」と言っても、突っ走ってばかりでは、息も切れるし、目まいもしてしまうでしょう。そこで、穏やかにほっと心を和ませるような、情趣溢れる小品も用意しております。小林美恵さんが奏する夢見心地のヴァイオリンをクライスラーの〈美しいロスマリン〉、そして〈タイスの瞑想曲〉でお楽しみください。また、20世紀を代表するチェリストのカザルスが、94歳の時にニューヨークの国連本部で、平和の祈りと共に伝説の演奏を行った、故郷カタロニア民謡の旋律をもつ〈鳥の歌〉も取り上げます。さらに、ベートーヴェンが残した優美な旋律を〈ピアノ三重奏曲 第4番〉の第2楽章の演奏でご堪能いただけます。

ここでご紹介した以外にも、クラリネットのソロ作品やピアノのソロ作品、そして4人の出演者全員で演奏する、とっておきの作品も用意しております! いつもよりちょっと優雅な昼下がりや、どうぞコンサートホールでお過ごしください。

1ドリンク付きで1,200円!! さらに、館内レストラン「ヴェールブランシェ」のご協力で、チケットをお持ちの方は2月2日(火)から2月28日(日)まで、同レストランのランチもしくはディナーに10%の割引価格でご優待します。チケット1枚につき1名様が有効です。是非、こちらまでご利用ください。 (中村)

最近の公演から

OCTOBER
NOVEMBER



1



2



3



4



5



6

水戸室内管弦楽団第77回定期演奏会

(10月10日、11日)

昨年6月の第3回ヨーロッパ公演で、本場ヨーロッパの聴衆や批評家からも大絶賛された「指揮者なし」の第77回定期演奏会、いかがでしたか？ 田中直子(ヴァイオリン、コンサートマスター)、原田禎夫(チェロ)、池松宏(コントラバス)、工藤重典(フルート)らのソロが随所にちりばめられたハイドンの交響曲(昼)、ラデク・パボラークの柔軟な音楽性が発揮されたハイドンの(ホルン協奏曲第2番)、編成をぐっと絞り、各パートが透けて見えるようなアンサンブルを聴かせたメンデルスゾーン(弦楽のための交響曲第10番)(コンサートマスター:潮田益子)、名手ぞろいのMCOメンバーが競ってスタンドプレイを聴かせたシューベルト(ドイツ舞曲)とドヴォルザーク(チェコ組曲)(コンサートマスター:豊嶋泰嗣)——「指揮者なし」のMCOの魅力に心ゆくまでお楽しみいただけたのではないかと思います。パボラークのアンコール曲は、10日がクローラ(ラウダツィオ)、11日がロッシーニ(狩の集合地)。《関根》アンケートから●ホルンの豊かな響きに驚きました。今回は曲目も多く、さまざまな曲が聴けてちょっと得した気分です。(新潟市:T.K.さん)●すごい良かったです!! 知らない曲ばかりでどうかな? と思ったんですが、どれも良い曲ばかりでした。(那珂市:A.K.さん)●特にホルンの響きがとてもすばらしかった。ラストの曲、迫力があって良かった。(牛久市:S.Y.さん)●泉から大河へと風景が変わっていくような(チェコ組曲)でした。ひとつの同じオーケストラが演奏しているとは思えないような音の変化に驚きました。(無記名の方)●音が澄んでいて、深く、心地良く、音に包まれ至福のときを過ごしました。(加須市:無記名の方)●ホルン協奏曲以外は初めて聞く曲ばかりで新鮮でした。ハイドンは各セクションのトップの独奏があって、聴きごたえがありました。パボラークさんの吹振りもMCOらしくて良かった。(Y.K.さん)

茨城の名手・名歌手たち 第20回(10月17日)

水戸芸術館開館の年(1990年)から休むことなく毎年継続開催してきた「茨城の名手・名歌手たち」も第20回を迎えました。音楽への熱い思いを抱いてオーディションに参加する「演奏家の卵」の皆さんや地元の先生方の暖かいご支援のおかげであり、あらためて感謝申し上げます。

さて、今年は「管楽器・声楽・器楽アンサンブル」の各部門を対象に6月7日に出演者オーディションを行いました。その合格者が本演奏会に出演しました。辺保陽一さん(リコーダー)、不二原輝子さん(フルート)、野田秀一郎さん(トロンボーン)、坂口大介さん(サクソ)、Duo Refletの佐藤靖子さん、吉成純子さん(2台ピアノ)、西晴美さん(メゾ・ソプラノ)、山崎法子さん(ソプラノ)、宇佐美悠里さん(ソプラノ)がそれぞれ心のこもった新鮮な演奏を披露し、たくさんのお客様から熱い拍手を受けました。

今回ご出演された皆様には、この演奏会を礎石としてますます活躍されますことを願っています。聴衆の皆様、今後もご声援をよろしくお願い致します!(関根)

アンケートから●ヴァラエティに富んだ演奏で、楽しかったです。(無記名の方)●すごかったです。すべてが刺激的でした!!(無記名の方)●生の演奏を聴く機会が少ないので、鹿児島から来た甲斐があったととても嬉しく思う。楽器も名前は分かっていても、やさしいリコーダーの音色や低音ながら引き込まれるトロンボーンなど初めて聴いてしばし癒され、豊かな気分で過ごすことができた。演奏前の解説も、とても理解しやすく、音楽を楽しむのに役立った。(鹿児島県始良郡:T.K.さん)

ちょっとお昼にクラシックEXTRA2

オルガニスト・グループ「TRM」の“踊るオルガン”!!
(10月26日)

平日の昼間に開催してご好評をいただいている「ちょっとお昼にクラシック」シリーズの公演。今回は、近藤岳さん、山口綾規さん、勝山雅世さんという3人のオルガニストによる演奏会をエントランスホールで実施した。3人の出演者は、東京芸術大学の大学院在籍中からの仲間で、「TRM」というグループ名をつけて、しばしば演奏活動を行っている。演奏会は「踊る音楽」をテーマに、それぞれのソロ、連弾、3人の連弾と演奏者の組み合わせを自在に変えながら行われた。彼ら自身の手による編曲も素晴らしく、エネルギー溢れる演奏が、聴衆を高揚へと導いていった。また、演奏者たちの手元や足元などをクローズアップして映し出すビデオ・カメラとスクリーンを設置し、普段は見ることのできないアングルから演奏の様子を見ていただくという演出も行い、お楽しみいただいた。(中村)

アンケートから●1時間が「あっ」と言う間で、とても楽しく過ごしました。演奏家の方々が、皆様本当に魅力的でファンになりました。素敵なコンサート、またお待ちしております。(無記名の方)●3人の人柄がとてもよく、いい雰囲気を作り出していたコンサートでした。そして何よりも曲とその演奏形態のユニークさ。もっと見て、聴いていたかったです。今度はぜひ2時間のプログラムをお願いします。(無記名の方)●若い世代の奏者の方々3人が仲良く、しかも個性的に演じておられるのが印象的でした。各々の曲の長さ、全体のコンサートの長さも丁度良かったです。それからトークも! ちょっとした曲の紹介や練習時の様子などを伺って、演奏の中により深く入っていくことができました。とても楽しい午後のひと時でした。(水戸市:M.H.さん)

市毛恵子 ピアノ・リサイタル(11月1日)

水戸市内にお住まいのピアニスト市毛恵子さんが、毎年のようにリサイタル活動を続けていることはご存知の方も多いことでしょう。しかも、毎回チャリティーとして、コンサートの収益金を子どもた

1~2. 水戸室内管弦楽団第77回定期演奏会

3~4. 茨城の名手・名歌手たち 第20回

5~6. ちょっとお昼にクラシックEXTRA2 オルガニスト・グループ「TRM」の“踊るオルガン”!!



ちの育成のために寄附されています。さらに特徴としては、リサイタルと銘打ちながらもピアノ・トリオを加えていることが挙げられ、気心の知れた音楽仲間たちと息のあった共演を重ねています。

水戸芸術館では初のリサイタルとなった今回の公演も、このような市毛さんの活動の流れに沿って行われました。モーツァルト、ショパン、メンデルスゾーンのパiano・トリオを中心としたプログラムで、ヴァイオリンの工藤由紀子さん、チェロの伊藤耕司さんとともに、ピアノ・トリオの魅力会場いっぱいに響かせていました。アンコール曲は、エルガー〈愛のあいさつ〉とサティ〈ジュ・トゥ・ヴ〉。《関根》アンケートから●好きなメンデルスゾーンの三重奏が聴けて良かったです。アンコールでは、会場が幸せに包まれていました。(水戸市:T.M.さん)●久しぶりに心がやすまり、洗われるようなひとときでした。(ひたちなか市:M.S.さん)●アットホームな感じでとてもよかったです。(ひたちなか市:K.O.さん)●ピアノの音色が素敵で、優雅な気分させられた。(ひたちなか市:E.Y.さん)

佐藤 篤 ピアノ・リサイタル(11月3日)

茨城大学教授の佐藤 篤さんのピアノ・リサイタル。佐藤さんは、2002年から全6回の「同世代を生きた作曲家達」というピアノ・リサイタル・シリーズを企画され、バロックから現代作品までを体系的に演奏されている。そして、今回は同シリーズを終えて、シューベルト、ショパン、ブラームスというロマン派時代の作曲家たちの作品によるリサイタルを行った。前半はシューベルトの〈即興曲 作品90の1〉に始まり、ブラームスの〈3つの間奏曲 作品117〉と〈7つの幻想曲 作品116〉。後半はショパンの〈3つのマズルカ作品63〉、〈ノクターン〉から4曲、〈ポロネーズ 作品53 “英雄”〉というプログラム。佐藤さんのエネルギッシュな演奏によって繰り出される、多彩なピアノの音響が、伸びやかにコンサートホールに解き放たれた。アンコール曲はショパン作曲〈ワルツ 変二長調 作品70の3〉、〈ワルツ 嬰ハ短調 作品64

の2〉、〈子犬のワルツ 変二長調 作品64の1〉。《中村》アンケートから●佐藤 篤さんの演奏会は、とてもステキで良かったです。(水戸市:N.S.さん)●今日も素晴らしい演奏を有難うございました。感動して10歳位若返って帰ります。(無記名の方)

水戸バッハコレギウム 第20回定期演奏会 (11月8日)

大作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハの音楽を演奏し、バロック音楽への理解を深めたいと1984年に結成された水戸バッハコレギウムが、その創立25周年を記念する演奏会を開きました。

第1ステージは合奏団による演奏で〈管弦楽組曲第3番〉(指揮:蒲生克郷氏)。第2ステージは合唱団が中心となるステージで、〈いざ喜べ、汝ら愛しき同志キリスト者たちよ〉などコラール4曲とモテット(主を誉めよ、すべての異邦人よ)(指揮:佐藤希久雄氏)。第3ステージは合奏団、合唱団が合同で教会カンタータ第11番〈神を誉めよ、その諸国にて(昇天日オラトリオ)〉(指揮:蒲生克郷氏)が演奏されました。満場の聴衆は、バッハの多様な音楽に魅了され、演奏者の皆さんに盛大な拍手を送っていました。《関根》アンケートから●コーラスの曲を多く聴くことができ、バッハの新しい魅力に触れた気がした。(那珂市:T.I.さん)●普段バッハを聴くことはあまりありませんので、新鮮でした。(水戸市:M.N.さん)●演奏も合唱もよかったです。会場によく響いて、気持ちが清々になりました。(水戸市:Y.T.さん)●合唱団の澄み切った声に感動しました。ヴァイオリン、トランペット、とてもステキでした。(ひたちなか市:E.N.さん)

1~2.市毛恵子 ピアノ・リサイタル
3~4.佐藤 篤 ピアノ・リサイタル
5~6.水戸バッハコレギウム 第20回定期演奏会



MCO年間予約席 『マイシート』発売のお知らせ

2010年に創立20周年を迎えるMCOは、小澤征爾指揮(4月)、準・メルクル指揮(7月)、宮本文昭指揮(10月)、ゲスト・コンサートマスターにライナー・クスマウル客演(11月)という4回の定期演奏会を予定しています。

水戸芸術館音楽部門は、MCOの活動をご支援くださいますお客様への新たなサービスとして、MCOの年間予約席『マイシート』を2010年1月6日から発売いたします。『マイシート』は、4回の定期演奏会を確実にご予約いただけるだけでなく、年間通して同じお座席を優先的に確保することができます。

各定期演奏会の初日をお聴きいただく【初日シリーズ】、2日目をお聴きいただく【2日目シリーズ】のいずれかをご選択いただけます。

“MCOの美しい響きをいつも同じ席で聴きたい”

という多くのお客様のご要望にお応えしての『マイシート』。詳しくは、MCO第79回定期演奏会チラシをご覧ください。

MCO年間予約席『マイシート』

【初日シリーズ】

S席 34,000円/A席 28,000円/B席 21,000円

【2日目シリーズ】

S席 34,000円/A席 28,000円/B席 21,000円

『マイシート』受付開始:2010年1月6日(水)

ご予約:水戸芸術館チケット予約センター

029-231-8000

information

■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

■【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

チケット・インフォメーション

〈1月6日(水)発売分〉

◎MCO年間予約席『マイシート』

【初日シリーズ】S席¥34,000 A席¥28,000 B席¥21,000

【2日目シリーズ】S席¥34,000 A席¥28,000 B席¥21,000

※「マイシート」は、2010年に開催する水戸室内管弦楽団(MCO)の4回の定期演奏会を同じお座席でお求めいただけるMCO年間予約席です。詳しくは第79回定期演奏会チラシをご参照ください。

※1/16(土)までは電話予約のみ。1/17(日)以降はエントランスホール・チケットカウンターでも取り扱いします(『マイシート』の取り扱いは、水戸芸術館のみです)。

〈1月9日(土)発売分〉

◎合唱セミナー2010 講師:藤井宏樹

2/28(日)10:00開始

参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生¥300

◎後藤晴美 フルーツ・リサイタル

3/21(日)15:00開演 料金(全席自由):一般¥3,000 学生(高校生以下)¥1,500

〈1月17日(日)発売分〉

◎水戸室内管弦楽団 第79回定期演奏会

4/9(金)18:30開演、4/10(土)18:30開演

料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

※発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会では、お1人様1回につき2枚までとさせていただきます。

※水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会には、「マイシート」発売および1/13(水)より運営維持会員、1/14(木)より友の会会員の先行電話予約がありますので、1/17(日)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし

中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎クリスマス・プレゼント・コンサート2009 ……12/23(水・祝)中央×、左右・裏△

◎ニュー・イヤー・コンサート2010 ……1/5(火)中央×、左右・裏△

◎Coro La DIVA 1st concert ……1/16(土)自由席○

◎モーツァルト:

ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第5回 ……1/23(土)中央○、左右・裏○

第6回 ……3/6(土)中央○、左右・裏○

◎スイス・チェンバー・ソロイスト

—ハインツ・ホリガーと仲間たち ……2/7(日)中央○、左右○

◎〈ちょっとお昼にクラシック⑨〉

疾駆のアンサンブル～独奏&二・三・四重奏～ ……2/19(金)中央○、左右・裏○

◎茨城音楽文化振興会 第8回定期演奏会

アール・スプリングコンサート ……2/21(日)自由席○

◎山口泉恵 ピアノ・リサイタル ……2/27(土)自由席○

※11/25(水)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な1・2月のスケジュール

コンサートホールATM

■ニュー・イヤー・コンサート2010

1/5(火)18:00開演 料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000

■Coro La DIVA 1st concert

1/16(土)14:00開演 料金(全席自由):一般¥1,500 学生(高校生以下)¥500

■モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第5回】演奏とお話:野平一郎

1/23(土)18:30開演 料金(全席指定):¥3,000 【第6回】(3/6)とのセット券¥4,500

■元気みと創出 芸術文化活性化事業 親と子のファミリーコンサート

栗コーダーカルテットコンサート

1/24(日)14:00開演 料金(全席指定):一般¥1,000 3歳から小学6年生¥500

■スイス・チェンバー・ソロイスト — ハインツ・ホリガーと仲間たち

2/7(日)14:00開演 料金(全席指定):一般¥3,500 大学生¥1,000 小中高生¥500

■大手橋プラムコンサート

2/14(日) 入場無料

■〈ちょっとお昼にクラシック⑨〉疾駆のアンサンブル～独奏&二・三・四重奏～

2/19(金)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(1ドリンク付き)

■茨城音楽文化振興会 第8回定期演奏会 アール・スプリングコンサート

2/21(日)14:00開演 料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,000

■山口泉恵 ピアノ・リサイタル

2/27(土)14:00開演 料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,500

■合唱セミナー2010 講師:藤井宏樹

2/28(日)10:00開始 参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

1月:30日(土)、31日(日) 2月:20日(土)

開演時間:12:00/13:30(2回公演) ※1月31日のみ12:00/13:00

□「オルガン名曲ライブラリー」⑩〈メンデルスゾーン〉

1/17(日)13:30開演 出演:椎名雄一郎

ACM劇場

■ACM百人劇場「パパ,I LOVE YOU!」

1/23(土)、24(日)、26(火)、28(木)、29(金)、30(土)、31(日)、

2/2(火)、3(水)、5(金)、6(土)、7(日)

木・日曜日:14:00開演、土曜日:16:00開演、

火・水・金曜日:19:00開演 ※ただし2/2は14:00開演。

料金(全席指定):一般¥2,000 学生¥1,000

■日本映画が好き2010

2/13(土)10:00～「にぎりえ」/13:00～「あすなろ物語」

2/14(日)10:00～「怪談」/13:20～「雁の寺」

料金(全席自由):¥500 ※1日出入り自由

※同日開催の水戸映画祭の詳細は、お問い合わせ下さい。(水戸芸術館:TEL/029-227-8111)

現代美術センター

■Beuys in Japan:ボイスがいた8日間

2009年10/31(土)～2010年1/24(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日、年末年始12/27(日)～2010年1/4(月)

11/23、2010年1/11(月・祝)は閉館、翌11/24、2010年1/12(火)休館

料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

茨城の主な1・2月の演奏会 ※有料公演のみ

◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■高木竜馬 ピアノ・リサイタル 1/30(土)18:00開演

◆常陽藝文センター TEL/029(231)6611

■藝文友の会会員優待催事 藝文フレッシュコンサート 1/31(日)14:30開演

■茨城演奏家連盟定期演奏会 2/6(土)14:00開演

◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

■米良美一 リサイタル 1/31(日)15:00開演

◆ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122

■フルーツフェスティバル in 茨城 2/21(日)14:00開演

◆日立シビックセンター音楽ホール TEL/0294(24)7720

■第14回ニューイヤーオペラコンサート ～愛の行方…～ 1/10(日)14:00開演

■日立シビックセンター音楽シリーズ2009

東洋と西洋のコラボレーションによる祭典 1/17(日)14:00開演

◆常陸太田文化センター・ロゼホール TEL/0295(53)7200

■ニューイヤーコンサート 東京室内管弦楽団 with 中島啓江 1/24(日)16:00開演

◆東海文化センター TEL/029(282)8511

■ニューイヤージャズコンサート『角田健一ビッグバンド』 1/17(日)16:00開演

◆ノバホール TEL/029(852)5881

■ブラハ交響楽団&千住真理子 1/15(金)19:00開演

■筑波大学津軽三味線倶楽部・無絃塾 第12回卒業公演

1/24(日)〈午前の部〉開演10:30 〈午後の部〉16:30開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2009年11月発行 第146号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):大金純子 佐川真美 関根哲也 高栗真樹 中村晃

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…
梅の季節に、別れと出会い…